

総合病院 鹿児島生協病院 医局学術誌

医報

Vol.18 2018.10

目

次

巻頭言	総合病院鹿児島生協病院副院長 福宿宏英	1
症例報告		
肝疾患が無く腸管由来の高アンモニア血症で意識障害を来した一例	川畑俊聡	2
著書・論文		
腹腔鏡下手術で診断・治療しえた腹腔内停留精巣の1例	森下繁美	6
電光石化の感染症 Snap Diagnosis 手は口と併せてモノを云う	小松真成	11
腸管外に脱出した魚骨を腹腔症下手術で回収した1例	平野慎一郎	13
繰り返す腹腔内遊離ガスを伴うイレウス症状に対し 開腹術を行った腸管囊腫様気腫症の1例	森下繁美	15
鼻腔放線菌症例	積山幸祐	22
学会発表・抄録		28
著書・論文一覧 / 講演・シンポジウムなど		37
臨床病理症例検討会 (2014年4月～2015年3月)		38
投稿規定について・編集後記		160

巻頭言

総合病院鹿児島生協病院副院長 眼科
福宿宏英



最近注目したニュースがあります。一つは「WHO は、アルコールが原因で毎年世界でおよそ 300 万人が亡くなり、中でも最も多い死因は交通事故やけんかなどの暴力だとする統計を発表し、アルコールの税率を上げて購入しにくくするなど、各国に対して対策を急ぐよう警鐘を鳴らしています。」というもの。もう一つは「世界で 11 億人がエアコンなど冷房装置のない生活を強いられており、地球温暖化の進行に伴い、熱波で亡くなる人が増えるといった深刻な影響が予想されとの報告書を国連がまとめた。」というもの。いずれも WHO が提唱する「健康の社会的決定要因」= SDH (Social Determinants of Health) に関するものです。一方、先ほど読んだ新聞の記事では「生活保護のうち、食費や光熱費といった生活費に当たる生活扶助の支給額が 10 月から変わる。受給世帯のうち 26% が増額となる一方、67% で減る。都市部の単身高齢者世帯や子どものいる世帯への影響が大きい。」と、反対方向を向いた動きも。

今回の鹿児島生協病院医報は 2014 年度版を 2018 年末での発刊となりました。依頼した原稿がなかなか集まらなかったこと、編集側の詰めが甘かったことなど反省する点は多々ありますが、決して学術活動が停滞していたわけではありません。学会発表、論文投稿、様々な研究会や勉強会での講演、専門医・認定医取得などの成果を上げています。今後は毎年遅滞なく発行できるようにして、これらの活動を確実に「見える化」することが一番の課題です。さらに私たちの病院では、「貧困と格差、超高齢社会に立ち向かう無差別平等の医療・介護の実践」と、「安全、倫理、共同のいとなみを軸とした総合的な医療・介護の質の向上」を医療・介護活動の 2 つの柱としています。これからの鹿児島生協病院医報では、「生物学的要因」に関する学術活動のみならず、「社会的要因 (SDH)」の視点からの学術活動も報告できるように目指していききたいと思います。